

HARWELL

The UK's leading science
and innovation campus

ここから、世界へ。





Harwell Campus is

領域を超えた協業、成長を可能にするエコシステム

キャンパスには「宇宙、量子／AI、エネルギー、医療」の領域を専門とする企業・機関が拠点を置いていますが、それぞれの領域に留まるのではなく、1つのコミュニティとしてハーウェルに存在しています。ネットワーク作りのためのイベントや勉強会、研究者同士の意見交換会などが催され、領域を超えたオープンイノベーションを育む環境がハーウェルにはあります。



Harwell Campus is

アカデミア×企業×投資家 世界中の頭脳が集まるハブ

オックスフォード近郊に位置し、30を超える英国トップ大学が近辺に存在するのもハーウェルの特徴の一つです。キャンパス内に拠点を置く企業・機関は200を超え、サイエンス領域における国内外トップクラスの頭脳と知見が集まっています。そのために投資家の注目度も高く、中小規模の企業やスタートアップが資金を得て、スケールアップしていく機会が用意されています。



“Harwell”へ、ようこそ

革新的な技術を持つ企業・機関が拠点をもち、英国最大規模のサイエンス・イノベーションキャンパスである「ハーウェルキャンパス」。どんな特徴がある場所なのか、国際的な注目を集め続けているのはなぜか、ご紹介いたします。

Harwell Campus is

世界をリードするイノベーションが生まれる場所

1946年に原子力研究所が開設されて以来、リチウムイオンバッテリーの開発やCOVID-19の原子構造の可視化に至るまで、「ハーウェルキャンパス」には、世界の一步先を行く研究を行ってきた歴史があります。現在では、283万平米を超える敷地に16もの英国政府直轄の研究機関、30億ポンドに匹敵する科学インフラ施設等を備えるまでに成長し、未来へ繋がる研究を支えています。



投機熱溢れる、UK屈指のイノベーション拠点へようこそ。



松永昌之
CEO of BIOSPIRE UK Limited

ハーウェル・キャンパスは、オックスフォード近郊に位置する広大なキャンパスで、ライフサイエンス・宇宙・AI・量子・環境エネルギー等の大中小の企業と公的な研究機関が集約する、英国政府が最も力を入れているイノベーションの拠点です。ハーウェルという地名は初めて聞かれる方も多いためと推察しますが、実に70年以上にわたり、英国政府が主導する最先端の研究開発を牽引してきた実績を有しており、現在は基礎研究から培われたスタートアップの育成からスケールアップ、更にはそれらと関連が深い企業を持つオープンイノベーション機能のサテライトの集約拠点として、投資熱溢れる国際的キャンパスに成熟しつつあります。当社もこのキャンパスに拠点を構える一員として、日本からの事業誘致やアライアンス強化をサポートしています。このパンフレットの内容が、貴社・貴機関のハーウェルへの進出へのご参考となることを願っております。

日本を始め、世界中の皆様と、次なるイノベーション創出を。



デヴィッド・ウィリアムス
Commercial Director of Harwell Campus

ハーウェルは国際的な科学研究キャンパスであり、コラボレーションとイノベーションを促進するために、世界中の中小企業、大学、投資家、公的機関が結集。240を超える組織と7,500人が通うキャンパスの中心には、中央レーザー施設、核酸治療加速器、英国宇宙庁、健康安全保障局を含む16の「オープンアクセス」国立研究施設、更にはロザリンド・フランクリン研究所、医学研究評議会といった戦略的な研究開発機関があります。ハーウェルキャンパスは英国政府と国際開発会社との合弁会社によって運営されており、2030年までに関係者は15,000人に達する予定です。私たちは国際的なパートナーを広く歓迎しており、この非常に多様な環境から次のイノベーションが生まれることに強い期待を抱いています。このパンフレットを読んでいる日本の皆様を含む世界中のステークホルダーによる新たなイノベーションの創出を楽しみにしております。

ハーウェルの4大クラスター

英国宇宙局、ロザリンド・フランクリン研究所など、ハーウェルにはこの4つの領域を専門とする企業・機関、および、これらの領域をまたがり研究活動を行う官民の組織があります。日々、キャンパスに通う研究者等の関係者は7,000人以上、組織数は200以上にも上り、組織や領域の枠を超えた広大で多様なネットワークをキャンパス内に形成しています。

宇宙 Space

欧州宇宙機関、英国宇宙局が拠点を置き、世界をリードする宇宙研究と次世代を見据えたビジネス機会を創出する。

European Space Agency
UK Space Agency
Oxford Space Systems
RAL Space
Astroscale
Thales Alenia Space

量子 / AI Quantum / AI

英国国立量子コンピューティングセンターの本拠地となり、官民学一体となった量子 / AI 技術のスケールアップを推進中。

Element Six
Red Wave Labs
Nu Quantum
National Quantum Computing Centre (NQCC)

UK Research and Innovation
Science and Technology Facilities Council
Satellite Applications Catapult
Rosalind Franklin Institute

エネルギー Energy

「ネットゼロ」実現のための重要な役割を担いながら、宇宙、量子 / AI、ライフサイエンス領域との協業も進む領域。

ISIS Neutron & Muon Source
Faraday Institution
Diamond Light Source
Frazer Nash
Johnson Matthey
Circle Oil
Volt Vision
Jacobs
Woodruff Scientific
Ricardo

医療 Health

独自の科学施設とビジネスノウハウを有し、医療技術からバイオ医薬品、細胞・遺伝子治療までの課題に取り組む。

Moderna
Oxford Nanopore Technologies
Nucleic Acid Therapy Accelerator(NATA)
Barinthus Bio
Agilent Technologies
Catalent Biologics
Medical Research Council



Diamond Light Source

2006年開所。イギリス唯一の放射光研究施設。ジェットエンジンからウイルス、ワクチンまで幅広い分野で“モノのかたち”を探る、いわば超巨大な顕微鏡。



日本の理化学研究所、高輝度光科学研究センターで研究員を務めた後、渡英。ビームラインに関わる業務の他、「タンパク質複合体の機能・構造に関する解明」というテーマで研究を行っています。私たちの施設の他に中性子実験施設のや、強力なレーザー光を使った研究ができるCentral Laser Facility、医学関連の施設もあり、様々な角度から研究ができるのがメリットです。横断できるのは施設だけでなく、研究者同士の繋がりもあります。僕らの分野でいうと、今は

タンパク質の構造解析をX線小角散乱(SAXS)という手法で行っていますが、同じような分野の研究者が定期的に集まってミーティングをしています。解析方法や実験装置の情報交換をできるのはありがたいですね。研究者からすると、国内のみで研究が進むという状況はもうほとんどないと思うんです。世界にネットワークを広げ、コラボレーションしていくというのは当たり前ですが、それをいかに早く進めるかが重要かなと。その足掛かりとして、ハーウェルはいい場所だと思います。

世界にネットワークを広げ
コラボレーションをする
足掛かりに最適な場所。



井上勝晶さん
Beamline Scientist of
Diamond Light Source

2008年よりDiamond light Sourceにてビームラインの設計建設、高度化、管理、および世界中から訪れるユーザーの実験支援業務に従事。

多種多様な人たちが暮らし、
事業も、人も、
意識は常に外向き。



三村智世さん
Marketing and Communications
Officer of Astroscale

「株式会社アストロスケール」に入社後、2022年よりUKオフィスへ転任。マーケティング&コミュニケーションを担う。

企業の枠を越えた協業と
迅速な開発ができる環境が
会社の成長を支えている。



筒井雄樹さん
Systems Engineer of
Oxford Space Systems

2022年より現職。システムズ・エンジニアとして、地球観測用・通信衛星用の大型展開アンテナの設計・開発業務に携わる。

ハーウェルに拠点を置く理由

日本の企業・スタートアップがハーウェルに進出する利点とは何か。現地で活躍している日本人の方々の話も含めて、ご紹介いたします。

01

世界有数の頭脳。最先端の施設。技術と知見に磨きがかかる。

世界市場で求められる技術や商材の開発は、グローバルな環境で鍛え上げられてこそ。英国内屈指の研究施設、頭脳がひしめくハーウェルでは、基礎研究から社会への応用まで、未来を切り拓く発見、進化をサポートする場が整っています。

02

“世界をリードする企業”が育つ土壌がある。

スタートアップ等の比較的小規模な企業のための場所はもちろん、将来的な顧客獲得、協業を見据えたネットワーク構築のための施設、イベント、サポートをキャンパスのコミュニティが提供。日本国内では得られない規模感でのスケールアップを叶えます。

03

グローバル規模のオープンイノベーションを享受できる。

各領域のフロントランナーが研究・開発拠点を置いているから、研究開発、試験、運用展開までのスピード感ある実施が可能。オックスフォードを中心とした学際的、国際的な交流もあり、組織や領域、国境を超えた革新が誕生しやすい環境です。



Astroscale

2013年創業。宇宙機の安全航行の確保、持続可能な宇宙環境の継承を掲げ、スペースデブリ（宇宙ゴミ）の除去を含む軌道上サービスに専業で取り組むグローバル民間企業。



本からUKオフィスに転任になり、2年が経ちました。私が来た当時は小さめのオフィスを借りていて、スタッフは100人ほど。今では仲間の数も倍に増え、手がけるミッションも多くなったなど成長を感じます。イギリスに来て思うのは、多種多様な人たちが暮らす国だからこそ、意識が常に外向きだなということ。例えば優秀なエンジニアをリクルートするにしても、イギリス国内に限らず欧州全体に目を向けられますし、イベントや展示会の開催も自ずと

欧州のマーケットまで広がります。私もこちらに来てから大々的なイベントのマネジメントをするようになり、日本と比べた時のマーケットの広さを改めて実感しました。また、東京にいた頃とは違った働き方ができているのも、こちらに来て良かったなと思う理由の一つです。ワークライフバランスがしっかり取れますし、キャンパスは自然に囲まれた場所があるので、仕事に行き詰まった時は散歩をしたり、ぼーっとしたり、オンオフの切り替えがしやすい環境なのも気に入っています。



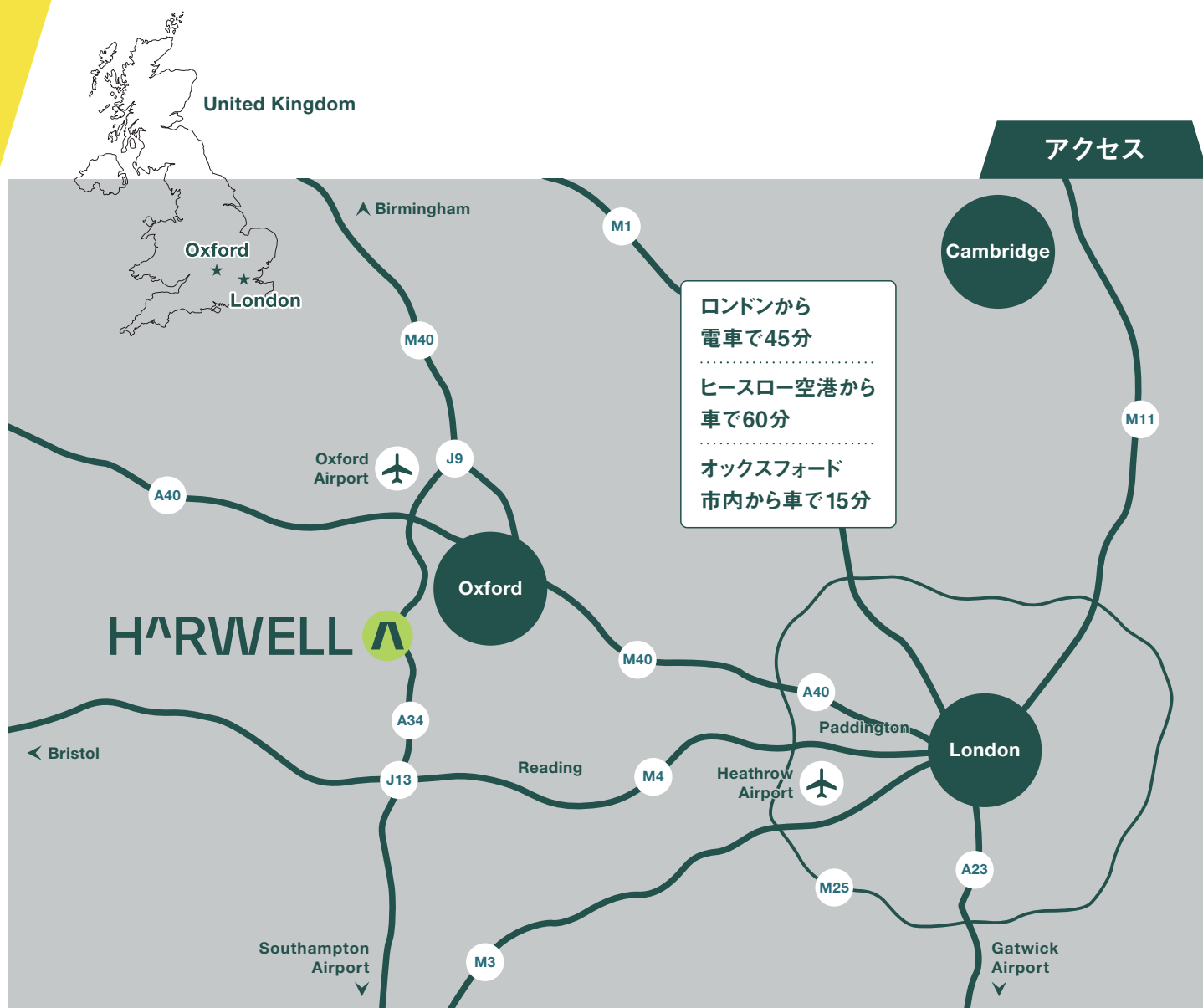
Oxford Space Systems

2013年創業。従来よりも軽量かつ高性能の宇宙用大型展開アンテナを開発。アンテナは主に「合成開口レーダー（SAR）衛星」に搭載され、地表面を観測するのに活用される。



本の宇宙開発機関である「ESA」で衛星開発に携わった後、宇宙用展開アンテナの開発を手掛ける「オックスフォード・スペース・システムズ」への転職を機に渡英しました。弊社は創業当初からここにオフィスを構えています。技術開発が軌道に乗った頃、直径5m級の展開アンテナを製造／試験するため、欧州宇宙機関であるESAやハーウェルのインキュベーション支援を受け、専用のクリーンルームを備えるオフィスをキャンパス内に建設して移転。このクリ

ーンルームはハーウェル最大です。また、同じくハーウェルに拠点を持つ「RAI Space」の施設でロケット打ち上げ時の振動を模擬した振動試験や、広い敷地を活用してドローンを飛ばし電波を測るアンテナ性能試験も、このキャンパスで行いました。迅速に開発試験ができる環境が揃っているおかげで、弊社は大きく成長することができ、今ではここはイギリスにおける宇宙開発の主要拠点となっています。まさに、弊社はハーウェルキャンパスとともに成長してきた企業かと思っています。



アクセス

ロンドンから
電車で45分
.....
ヒースロー空港から
車で60分
.....
オックスフォード
市内から車で15分

住所

Quad Two, Rutherford Avenue,
Harwell Campus, Didcot, Oxford OX11 0DF

最寄駅

「Didcot Parkway」駅よりバス、タクシーで15分

お問い合わせ

ハーウェル・キャンパスへの視察、事業拠点開設についてのご相談は、
同キャンパスにも拠点を有するBIOSPIREが受けいたします。
ご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください(日本語可)。

biospire-global.com
info@biospire-global.com

Biospire JAPAN Limited

〒103-0023
東京都中央区日本橋本町2-3-11
日本橋ライフサイエンスビルディング 5F
+81(0)50 5534 0777

Biospire UK Limited

F32 Atlas Centre (R 27)
Rutherford Appleton Laboratory
Harwell Campus
Oxfordshire OX11 0QX
+44(0)1865 522 255